花ちゃん・オー君・モンタ博士のわくわくドキドキ国立てくてく

国立第七小学校　平成２５年１０月８日　NO.４８

モンタ博士「この中に、いいものが入っているんだ。
なーんだ。においをかいで当てよう！」

花ちゃん　「あ！これは、お花のにおいですね。」

オー君　　「あ！わかった。これは、おいらの
おうちのトイレのにおいだ。」

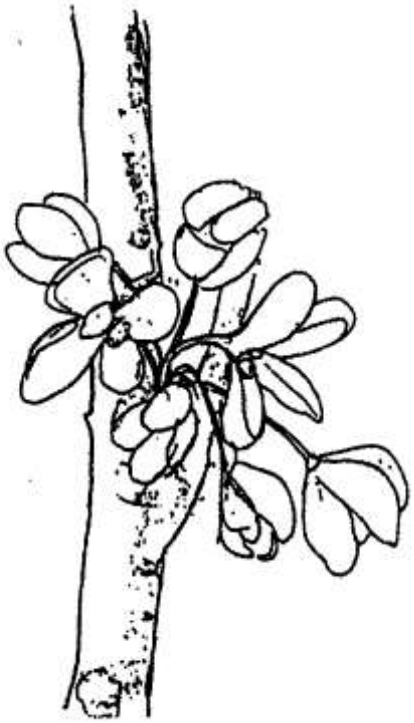
花ちゃん　「え！トイレ！どういうこと。」

オー君　　「トイレにある、においのするやつだ。」

花ちゃん　「それって、もしかして、トイレの芳香剤
（ほうこうざい）のこと。」

オー君　　「トイレのにおいじゃないの？じゃあ何？」

花ちゃん　「そうだ。思い出したわ。キンモクセイの
お花のにおいだですね。」



モンタ博士「ピンポーン。当たりでーす。これは、
校庭の東のフェンスの近くにあった
キンモクセイの枝（えだ）を一つ
いれたものさ。いいにおいだろう。」

花ちゃん　「わたし、キンモクセイ、大好き。」

モンタ博士「モンタ博士も大好きだね。一年中、
葉っぱをつけている木で、それほど、
めだたないものだけど、この花の
時だけ、この一週間くらいだけだ
けど、そのすばらしさを教えてくれ
るんだね。」

オー君　　「なるほど、かげばかぐほどいいにおいだ。心がなごむって感じだな。」

花ちゃん　「においのもとは、葉っぱではなく、花びらからにおうのよ。」

オー君　　「どれどれ、虫メガネで、花の正体を見てやれ。あ！オレンジ色の花だな。」

モンタ博士「オレンジ色を金色に見たてたので、キンモクセイというのさ。」

花ちゃん　「ところで、キンモクセイのお花はいつかはかれてしまうわ。ちょっと残念ね。」

オー君　　「なーるほど。いつまでもこのにおいを一人じめしたいんだね。」

花ちゃん　「何かいい方法はないかしらね。」

オー君　　「ガラスのビンにキンモクセイの花をたくさんとって、それからハンカチを入れて、フタをすれば、キンモクセイのかおりハンカチのできあがりさ。」